



# かどや通信

第50号

発行日：令和4年5月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

## 流木が新たなアートに

### 写真で更なる魅力が引き出され

四月の展示は、流木造形作家・

中瀬恵さん(多気郡明和町)の「旅する命〜ひとひらのバード」と題した作品展だ。中瀬さんは昨年八月に写真集「旅する命」を刊した。そこには宮川で出会った流木にプリザーブド加工(生花の色素を抜き取り、枯れないようにする特殊な加工)を施した花や葉を飾ったオブジェ二十八点に、中瀬さんのエッセイが添えられており、撮影はフリーカメラマンの長谷川浩一さんが行った。

かどやには、写真集の中からオブジェ九点と写真三十一点を展示。枯れて流木となった木々たちが、中瀬さんの手によって命を吹き込まれ、新たなアートとして蘇った作品が並ぶ。



中瀬さんは長年フラワードesignアーティストとして活動し

ており、四年前に宮川の岸辺で拾い集めた流木を所有している知人に出会ったのがきっかけとなり「長い年月をかけて成長し、その後流木となった木々がいとおいしくて、再生できないかしら」と、フラワードesignの技術を生かした作品づくりを始めた。

ところで、写真集では、撮影場所もオブジェの魅力を引き出す重要な要素になっている。長谷川カメラマンは、どこに置けば作品の魅力を最大限に生かすことができるのか、太陽や月の位置も考えて、場所選びに時間をかけた。

かどやには、高さ約一メートルの流木にバラを加工したプリザードフラワーをはじめ、中瀬さんの技術とセンスが光る作品が並び、見学に訪れた人たちを魅了した。

## 《朗読演奏会も実施》

展示に併せて、十六日にはハープ、十七日はインディアンフルート、十八日にはピアノとのコラボで、「旅する命」に掲載されているエッセイを中瀬さんが朗読するライブも行われた。コロナ感染防止



のため当初は中庭で実施

施する予定だったが、初日は強風、二日目と三日目は雨のため急きよ会場を室内に移して行われた。中瀬さんの優しい語り口と演奏が相まって、おだやかなひと時となった。なかでも、インディアンフルート\*を知る人は少なく、神秘的で聞こえかたの音色が朗読を一層引き立てた。



\*インディアンフルートは、縦笛の木管楽器。奏者の岡さんが米国旅行でインディアンが暮らす村を訪れ、祭で演奏されたのを聴いて感動。帰国後、奏法を習得し、楽器も自分で制作している。今回も自作の楽器十本を持参した。

## 多様な生活雑貨がスラリ

五月の展示は「暮らしの手仕事五人展」と題して、衣類や陶芸、アクセサリー等、分野の異なる作家さんたちの暮らしに根付いた作品、なんと約五百点が所狭しと並んだ。

五人展には、陶芸と裂き織の「風のすみか」のリン「さん」「夫妻」伊勢市の呼びかけに応じて、和服をモダンなデザインの洋服にリメイクする「チクチク工房MASAKO」のマサ「さん」(伊勢市)と、とんぼ玉アクセサリーや古布小物の「クニソフト工房長者野」「夫妻」(大紀町)が出展した。発起人のリン「さん」と「チクチク工房」のマサ「さん」は、平成二十九(二〇一七年)十二月にもかどやで



人展を  
行っ  
てい  
る。  
リン  
「さん」  
の裂き  
織の作  
品は、縦  
糸に絹  
糸、横糸

には古布を裂いてひも状になったものを  
用いて織機で織り、それをバッグ  
やバスト、「コースター」や敷物等に仕  
立てたものだ。

ところで、裂き織の起源は、江戸時  
代中期の東北地方にさかのぼる。布  
が貴重で高価だった時代に、使い古  
した布も捨てることなく新たな布  
として再利用する、今で言うSDG  
sの  
考えを生かした技術なのだ。

リン「さん」の作品は、古風な「和」  
の良さを生かしながらも、配色が粋  
で、気品にあふれており、内宮のおか  
げ横丁でも人気のブランドだ。

一方、第二の人生に陶芸を選んだ  
ご主人は、陶芸教室で基礎を学び、  
現在は自分の窯で茶碗や皿、コーヒ



ーカップ  
等々を制作  
している。  
日々の暮らし  
にぴった  
りの落ち着  
いた色彩と  
使いやすい  
デザインが  
好評だ。  
チクチク

お客様との会話を楽しむマサコさん(左)



工房の  
マサ「さ  
ん」は、若  
い頃から  
手芸  
が大好  
きで一  
十代で  
和裁を  
習い、洋  
裁は定

年退職を機に本格的に始めた。とに  
かく作ることが好きで、時間と布さ  
えあれば和服をほどこき、洋服に仕立  
ている。今回は、大胆なデザインの  
センスあふれる和洋服が多数展示さ  
れた。マサ「さん」はあつからかんと  
した明るい性格だが、手仕事は繊細  
そのもので、決して手を抜かない。見  
学に来られたお客様の一人は「いろ  
んな所で手づくりの洋服を見てきた  
けど、こんなに丁寧な作品を見たの  
は初めて」と大絶賛していた。

「長者野」のヒロミチさんは、元看  
板職人さんで、在職中からトンボ玉  
に魅せられ、仕事以外は作品作りに  
没頭していたそうだ。今回は、ネック  
レスやピアス、ブレスレット等を出



展。かど  
やの色  
ガラス  
にピン  
トを得  
たネック  
レスを  
はじめ、  
アマビ  
工(疫病  
封じの

妖怪)や宇宙人を模したものの、様々  
ないろどりのキノコ、宇宙を感じさ  
せる神秘的なブルーの球体など、ア  
イデアあふれるトンボ玉が並んだ。  
カナ「さん」は、赤を主体とした古  
布を使った手提げや、松阪もめん等  
をパッチワーク風に組み合わせた巾  
着袋、アイデア次第で様々な用途に  
使える紐等を出品。色彩感覚が素晴  
らしいヒロミチさんのトンボ玉と、  
懐かしさを感じさせるカナ「さん」の  
作品のファンも多く、遠方からもか  
どやに足を運んでくれた。

暮らしに根差した作品展だが、内  
容はバラエティーに富んでおり、「い  
ろんなものが見られて、楽しかった」  
との声をいただいた。

## 天まで届け!! ラブちゃん唄んで熱演!!

第九十八回かどや昼下がりにコンサート「ラブちゃんを唄ぶ会」が五月八日に開催され、演奏者を含め約五十人が参加した。

ラブちゃんこと井村夫さんは鳥羽での音楽イベントを常に盛り立ててくれたが、残念ながら昨年二月八日に亡くなられた。コロナ禍での葬儀は内輪のみで行われたが、幅広い人脈を持つラブちゃんを見送りたい人達は多かったはず。そこで、ワクチン接種が普及したこともあり、音楽仲間が集う「唄ぶ会」が実現した。ただし、かどやでは密集を避けるため館内での「コンサート」は極力控えており、中庭が会場となった。屋外でのイベントは天候が



気になるが、当日はコンサートにはついついの五月晴れの穏やかな日だった。唄ぶ会ではまず、井村夫



人がラブちゃんへの思い出を語り、集まってくれた人たちに感謝の意を述べた。次に、鳥羽丸鬼水軍太鼓保存会の皆さんが力強い太鼓の演奏を披露した。同保存会は昭和五十一年に結成されたが、ラブちゃん

は立ち上げメンバーの一人で、病に伏すまで奏者として活動を続けていた。メンバーとの絆も強く、天国のラブちゃんに届けとばかり、気迫あふれる演奏に会場からは大きな拍手が送られた。続いて、ギター仲間五組が登場。かどや専属の「かどやゼンザース」に始まり、志摩市の「LAUOJA(あわ)」、大紀町の「紀勢バンバンバンド」、松阪の「愛風」、最後はラブちゃんとの関りが最も強かった伊勢の「シヨウシ浜口」が登場し、それぞれが二曲ずつ熱唱した。その後、ラブちゃんがコンサートで必ずと言っていい程歌ってい

た「この広い野原いっぱい」「あの素晴らしい愛をもう一度」「今日のはさようなら」を会場のお客様と一緒に歌ってお開きとなった。

館内には、浜口さんが準備してく

れたラブちゃん愛用のギターをはじめ、カメラの腕を生かして作った特製カレンダー、風景や植物等の写真集、太鼓保存会のメンバーやギター仲間との懐かしい写真等が飾られていた。コンサートの出演者たちは「僕らの歌声、ラブちゃんに届いたかなあ」と、在りし日の写真を眺めながら感慨にふけていた。

### 奈良大生が卒論発表!

#### テーマは鳥羽なかまち

奈良県立大学地域創造学部をこの春卒業した松本啓佑さんが五月四日、「移住支援組織の現状と課題」鳥羽なかまち会のこれまでの歩



最後は、ラブちゃんに届けと大合唱

み・これからの歩み方の模索」と題した卒業論文の発表を行い、中村鳥羽市長をはじめ地元住民やなかまち会員、地域おこし協力隊のメンバー等が集まった。

松本さんは二年前に鳥羽市の移住担当者と出会い、なかまち会を紹介され、行政に頼らず地元住民が主体的に活動していることに魅力を感じ卒論のテーマに選んだという。

発表は、なかまち会の様々な活動について松本さんの視点で感じたことを詳しく紹介。大学生とのコラボによる空き家のリノベーションやクラウドファンディングの活用など、現代に即した活動が素晴らしいと高く評価した。一方、更なる発展には、空き家住宅の整備をはじめ、経営ノウハウに精通した人材の確保や、活動資金不足の克服も課題であると語った。

最後に、なかまち会の地元住民主体の活動は非常に貴重で、会員の熱い思いを記録に残したかったと強調した。



# 日本語話にほっこり 大人も楽しいおはなし会

おはなしの会「ミルクキーウェイ」の三十周年記念行事「ストーリーテリングおはなし会」が五月十五日(日)、かどやの座敷で開催され、鳥羽市をはじめ伊勢市、松阪市、津市等から二十六名が参加した。

今回は「日本の昔話をたづねると日本の四季」と題して、「カップと瓜」「みるなのくら」など日本の四季にちなんだ七つの話を、七人の語り手がしみじみと語ってくれた。参加者からは「最近ほ、ゆっくり人の語りを聴くことはなごいので、おはなしの時間でした」と大好評だった。

なお、この記念行事は、かどやを皮切りに、七月九日に伊勢の赤門寺正寿院、十月一日に鳥羽市立図書館、来年三月二十六日には伊勢の尾崎尋常記念館で開催の予定だ。

ストーリーテリングは耳からの読書といわれており、朗読や読み聞かせ



が本や絵本に書かれていた文章を読んで聞かせる



← 今回使われた本をカフェに展示

のに対し、語り手が物語を覚えて語るのが特徴だ。

ミルクキーウェイの活動は、平成四年(1992年)に鳥羽市立図書館がストーリーテリングの講習会を開いたのがきっかけとなり、現在も毎年一回講習会を開くと同時に、会員十一名は毎月の例会には勉強会を行い、第一土曜日と春・夏・冬休みには「おはなし会」も開催。子供たちが本に親しむことを目的として、学校などから依頼があれば出前おはなし会も行い、精神的に活動している。

## かどやでも

「絵本の時間」が始まるよ!

だれが:ゼロ才から男女どなたでも

どこで:かどやの中庭、蔵の前

(雨天は館内)

いつ:毎月第一土曜日

午前11時~11時30分

第一回目は6月4日(土)

奮ってご参加ください!

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

## 貸部屋のご案内

かどやを有効に活用していただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。

詳細は、かどやへ。

電話 〇五九九-二五八六八六

## かどや保存会 令和4年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

平成30年度は会員数が351名に達しましたが、残念ながら以後毎年減少しています。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和3年度は3月末現在で269名の方から新規や継続のお申込みをいただきました。皆様からのご支援を心より感謝いたします。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われませんが、感染防止対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、これからも日々努力を重ねてまいります。令和4年度も引き続きご支援いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和4年度(令和4年4月1日~令和5年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し:かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込:郵便局 当座 かどや保存会 〇〇850-4-151751